

署名たくさん 集まりました!



# 直江津に総合病院を残せ

# 14500筆超える!!

## 9/15 署名提出報告会開催

医療を守る会の会員や署名集めに頑張っていた市民・団体の皆様にお集まりいただき、署名提出の報告会を行います。ぜひご参加ください！提出時の様子や、今後の取り組みについていろいろ話をしましょう。

2024年9月1日(日)午後2時  
上越市民プラザ第3会議室 参加費無料



# 馬場ひでゆきの活動日誌

# No.35

## 9月9日署名提出

「労災病院がなくなる、地域医療が危ない」との思いで始まった地域医療の構築を求める要望署名。8月末時点で14500筆を超えました。署名集めに奔走された皆さんお疲れ様でした。署名活動の母体となった上越地域の医療を守る会は、9月9日新潟県福祉保健部に出向き、署名を提出します。私も同行します。直江津地域に総合病院を残してほしいという皆さんの切実な願いを伝えてきます。

9月15日には、同会の主催で署名提出報告会が開催されます。ご参加ください。

## 上越地域の医療体制 医療現場から考える

上越地域の病院で働く医療従事者の皆さんが実行委員会をつくって「考えよう！上越の医療体制」という討論会を9月21日に開催します。

この討論会は、医療従事者と地域住民の皆さんと一緒になっ

て将来の上越地域医療を考えていくことを目的としたものです。

現在、新潟県は、上越地域（上越市、妙高市、糸魚川市）にある病院を「中核病院」と「地域ケア病院」とに分類し、「急性期医療を中核病院に、その他の医療を地域ケア病院に集約することを計画しています（裏面参照）。

討論会の宣伝チラシには、県の進める計画について次のような疑問が提示されています。

●上越の救急患者受け入れが市内3病院で完結しており、新たな中核病院に患者が集中すると、待ち時間も長くなり、対応する職員の負担が増すのではないか。

●県立病院と厚生連病院の経営赤字が問題となっているが、公的病院が地域で果たすべき役割は財政問題とは別次元のはず。

●病院の経営努力だけではなく、国・県・市などの行政からの支援を強化しなければ、私たちの地域から通院できる病院が無くなってしまわないか。

こちらの討論会も、是非ご参加ください。



## 考えよう！ 上越の医療体制

第1部：基調講演

「上越地域の地域医療を考える」  
城西大学経営学部 教授 伊関 友伸 氏

日時 2024年9月21日(土)  
午後1時45分～午後4時30分  
(開場 午後1時30分より)

参加費 無料

第2部：パネルディスカッション

「考えよう！ 上越の医療体制」

■パネリスト  
城西大学経営学部教授 伊関 友伸 氏  
他、地元上越市 健康福祉部からの参加や地域医療再編を経験した魚沼地域で働く医療従事者、市民の方からの参加を予定しています。

参加のご案内 定員450人(先着順)  
事前に参加申込は不要です。

会場 リージョンプラザ上越  
コンサートホール  
〒942-0063 上越市下門前446-2  
電話:025-544-2122



お問い合わせ 自治労新潟県本部 電話:025-281-8020 Fax:025-282-3211

主催：「考えよう！上越の医療体制」実行委員会

後援：連合新潟、自治労新潟県本部、新潟県職員労働組合、新潟県厚生連労働組合、新潟県医療関連労働組合協議会





### 私の推し本その15

先崎学著 「うつ病九段」(文藝春秋)

この本は「うつ病」を克服できた人の奮闘記です。

うつ病は、「心の風邪」と聞いたことがある。しかし、それがとんでもない間違いだというのが、これを読んでわかった。ほっておけば死を選択してしまう。先崎さんは、「うつ病とは死にたがる病気である」という。

先崎さんは有名なプロ騎士。棋界の不祥事対応で疲弊し、うつ病になった(当たり前だが、病気に社会的地位は関係ない)。夜は眠れず不安になる。次から次へと不安なことが頭に浮かんでくる。病院に入院する。予定されていた対局を断念する。どんどん絶望の深みにはまっていく。毎日何十回も電車で飛び込むイメージが、先崎さんの頭の中を駆け巡る。

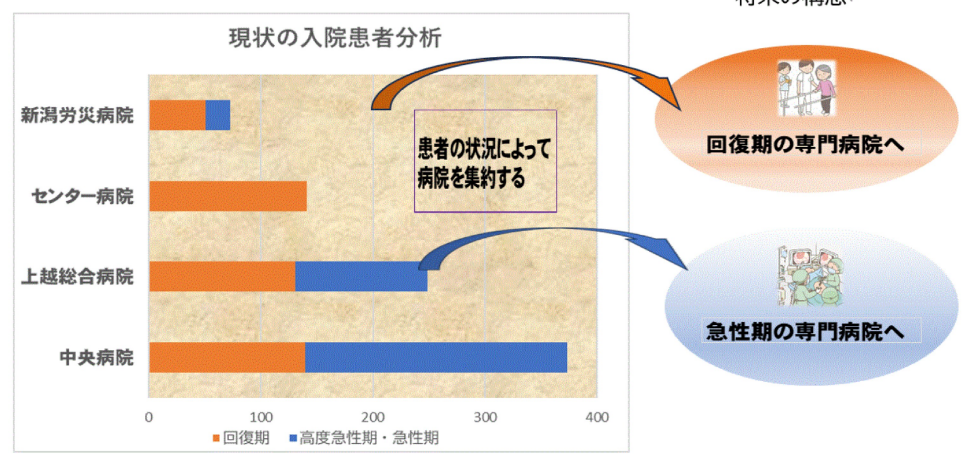
その絶望の淵から彼を救ったのは、彼の棋士としてのプライドだった。6歳で将棋を覚え、9歳で将棋の世界に入った。17歳でプロになって30年。だらしなくて常識がなくても、自分は将棋が強いんだという自信だけで生きてきた。その自分にとって、うつで「将棋が弱くなる」ことだけは絶対に許せなかった。芸を落としてたまるかと思うと涙が出た。芸を落とさないためには将棋を指す、勉強するしかない、そう思い、仲間にラインを送り相手になってくれと懇願した。立ち直る方法も人それぞれなんだろう。この死にもの狂いの姿に感動した。



## 第1回 地域医療構想調整会議

県の福祉保健部が主導する「上越地域医療構想調整会議」の第1回目が、8月30日上越医師会館で開催され、私は傍聴人として参加しました。

会議では、糸魚川市の医療体制の課題、①開業医の高齢化、事業継承が少ない、②救急体制で糸魚川総合病院が過剰負担、③看護師不足が加速、④人口減



少に伴い市内医療機関の収益悪化、などが報告されました。次に、上越地域医療の将来的な再編が議論されました。①急性期の患者が減少する一方で、回復期・慢性期の患者が増加し、地域の病床数が足りなくなる、②急性期病院に多くの回復期患者が入院している、そのため、急性期医療を「中核病院」に、その他の医療を「地域ケア病院」に集約するとの考え(イメージ図)が示されました。

## 学校給食無償化! 要請行動

8月26日、新潟県内で学校給食の無償化を目指す6地域の市民団体が、県内すべての地域で給食無償化が実現するように花角英世知事に宛てた要望書を新潟県教育委員会に提出しました。私も同席しました。各団体から20名が参加し、署

名活動の中で、保護者から「物価高騰で家計は大変」「小学生3人を抱える世帯で、給食費と教材費などで月5万円も引き落とされる」「無償化になれば、そのお金を毎日の朝夕のおかずの購入に廻せる」などの声が出てきたことを伝え、給食無償化の実現、子育て世帯への経済的支援を訴えました。



## 馬場秀幸のつごき 8月31日～9月6日

●9月2日(月) 10時～新潟県議会、防災・脱炭素社会づくり特別委員会

会議では、県の関係部局から、災害時における医療救護体制の整備、高齢者、障害者などの要配慮者の安全対策について報告がありました。

質疑では、能登半島地震では水が不足し、人口透析治療に支障があり、病院の貯水能力を検証する必要性があるとの議論がなされました。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所  
 住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号  
 ダイヤパレス高田武番館2階  
 電話 025-546-7110  
 ファックス 025-546-7666  
 メール kengi-bahahideyuki@wind.onn.ne.jp